

岐阜支部

ちようちん

2013年10月号

全国障害者問題研究会岐阜支部 〒500-8879 岐阜市徹明通7-13 岐阜県教育会館401

TEL/Fax 058-253-7033 Email zenshouken_gifu@yahoo.co.jp

ケアホーム建設に御協力をお願いします

障害福祉サービス事業所「ポップコーン」施設長 今村正子

ポップコーンは、設立当初からの理念の一つに「地域で生きる」をテーマに掲げていました。「重い障害をもっていても街の中で普通に暮らす（親亡き後も）」そんな姿を思い描いていました。制度に裏打ちされたものではなく、そうありたいという願望を抱き続け、どんな形で、どんな方法で、と模索し続けてきました。ノーマライゼーションの理念が浸透するなかで、法的にも「施設入所から地域へ、入所施設はもう造らない」とするケアホーム事業の推進が提起されました。このことについては大賛成で、私たちの願いが現実のものとして、青写真を描けるようになりました。

しかし、施設整備事業（建物）としての補助金は2,000万円弱が限度で、土地購入、外構、設計費用についてはすべて自己負担しなければなりません。また、運営に係る報酬単価も低く、重度の仲間たちの生活を担っていくだけの人件費はまかなえないため、本体事業の収入から補填せざるを得ない状況となっています（すでに運営しているすべての他施設の実態です）。国はあまりにも無責任ではないでしょうか。親亡き後はどこで暮らしたらいいのですか？質問したいです。今年度4月に施行された障害者総合支援法では3年間をもって検討する9項目が明記されています。その1項目にケアホームとグループホームの一元化が入っており、7月から厚労省の社会保障審議会障害者部会において制度見直しの議論が始まりました。推移を見守りつつ検証していきたいと思っています。

以上のように厳しい現状ではありますが、「いつまで子どもの面倒をみれるかわからない、毎日が不安だ。ケアホーム（生活の場）をポップコーンでも早くつくって欲しい」という声が高まってまいりました。同時に、かねてよりショートステイの必要性も強く感じていましたので、ケアホーム利用者6名、ショートステイ2床規模で建設することを決意いたしました。

まずは、1棟ということですが、隣接して2棟以上が運営・安全面等から考えると必要ですので、広い敷地を確保しなければなりません。

現在取り組まれているショートステイにおいては、けいれん発作があり、かつどんな形であったとしても「移動ができる」という重度障害者を受け入れてくれる施設がありません。また、知らない所へは心配であずけられないという親さんの気持ち等々で、ポップコーンではショートステイを利用されている仲間がほとんどありません。親は病気にもなれないというギリギリの状況のなかで生活しておられるのが現状です。こういう実態があるからこそ、日々安心して生活を送っていただけるような環境をポップコーンが作っていきたいと考えています。

ケアホームは、通所とは異なり1日の生活全般をみていくわけですから、様々な問題がでてくるとは思います。その都度、職員全員細やかな気持ちを持って取り組んでいきたいと思っています。そして、楽しくて温かくてほっとできて親さんが安心できるホームを作っていきたいと思っています。

ケアホーム建設には多額の資金を必要としています。主旨をご理解いただき多くの皆様にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

これだけの自己資金が必要です

3,500万円

募金をよろしく
お願いいたします

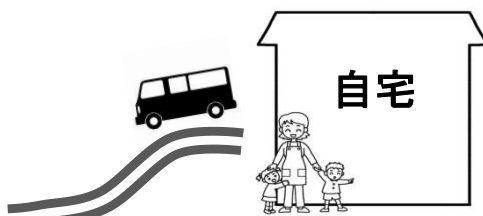
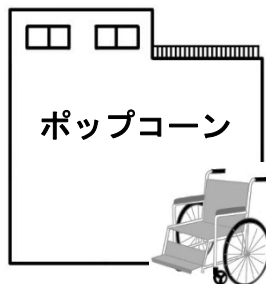
金額 1口 1,000円から
何口でも結構です。

郵便振替 00890-7-123881
口座名称 ポップコーン福祉会
ケアホーム設立委員会

銀行振込の場合

ゆうちょ銀行 〇八九店 当座
口座番号 0123881
口座名称 ポップコーン福祉会
ケアホーム設立委員会

☆自宅での生活



これまでは、
自宅からポップ
コーンへ通う
選択肢しかあり
ませんでした。

☆ケアホームでの生活



(連絡先)

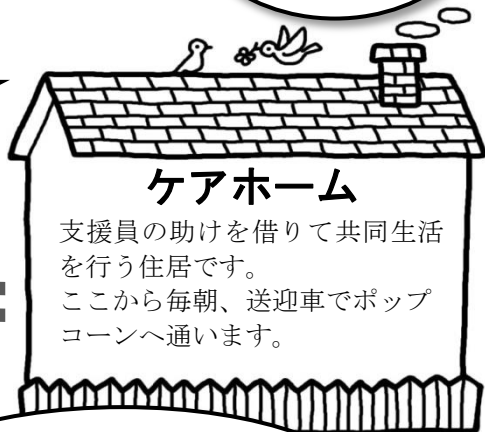
社会福祉法人ポップコーン福祉会

岐阜市中西郷1丁目20番地

TEL (058)215-7021

Email: pop-gifu@

kke.biglobe.ne.jp



支援員の助けを借りて共同生活
を行う住居です。
ここから毎朝、送迎車でポップ
コーンへ通います。

「仲間が地域の中で安心
して暮らす」という夢が
実現します。

発見！“発達保障”～from Fresh Eyes～



☆7. 「集団」について考える☆

若井 基一

～はじめに～

今回のテーマは「集団」です。「集団」と聞いて、みなさんはどういうことを思いおこされますか。「たくさんの人が同じ場所で同じことをしている」「みんなそれぞれバラバラのことをしていても、共通する目標や目的を持っている」「“学級”や“施設”など、ある一定の枠に囲われている」など、いろいろなことが考えられると思います。

「発達」に関して「集団」ということばを使うとき、ここではその定義を「個人が所属し、そこから何らかの影響を受ける共同的なあつまり」としたいと思います。

個人の発達にとっての「集団」の意味や意義はいろいろな角度から考えることができ、それに関する文献もたくさんあります。しかし、私はいまそれについて学んでいる途中で、まだ自分の言葉で語ることはできません。

そこでまず今回は、私が働く成人期施設「ポップコーン」の活動の中で「集団」を特に意識させられる場面やエピソードをみなさんに紹介したいと思います。そして次回以降、その内容を題材に「集団」の意義について深めていければ、と思っています。

～アルミ缶作業の場面における「集団」～

ポップコーンで特に私が仲間たちの「集団」を意識する場面は、アルミ缶作業です。ポップコーンの生活介護事業に属する仲間26名のうち、14名がアルミ缶処理班にいます。自主製品製作班や下請け作業班とは異なり、ポップコーンの中でも知的に重い障害をもつ仲間が中心で、月・火・木・金曜日の午前中に作業をしています。大きめの段ボール箱くらいの大きさになるつぶし器のペダルを踏んでアルミ缶を潰していくことや、つぶし器の一つひとつ缶を入れていくこと、少し離れたところに置いてあるアルミ缶を仲間のところまで運ぶことなど、5種類くらいの工程に分かれて活動しています。

以前は基本的に毎日同じ工程を担当してもらっていましたが、チャレンジとして担当する工程を交代してみたときのことです。なんと、仲間たちはとてもスムーズに新しい工程をこなしてみせたのです。これは特に、ガチャガチャ音をたてながらペダルを踏むアルミ缶つぶしの工程で顕著でした。このことから、普段は自分の工程に一生懸命に見える仲間たちも、しっかりとまわりの仲間を感じ、その動きを見ているのだと気づきました。知的に重い仲間たちも他の仲間を意識して作業していたのです。

アルミ缶を運ぶ仲間とそれを受け取る仲間の間にもおもしろい「集団関係」があります。言葉を発することはなく、表情でまわりの人に自分の思いを表現する寛（ひろし）さん。友

香さんからアルミ缶を受け取っても、ちらっとそっちを見るくらいなのに、真由美さんとアルミ缶を運んでくる姿が見えるだけでニマッと笑いだし、すぐそばまできてくれて缶を差し出されると満面の笑顔になるのです。真由美さんだけが缶を運んでくるのならば、寛さんはこのような相手による気持ちの高なりの違いを感じることはなかったでしょう。真由美さんに加えて他の仲間も運んできてくれる、という集団的な場面があるからこそその経験なのではないでしょうか。

ところで、これは私の推察ですが、アルミ缶作業班が大勢で作業をしている雰囲気、これがそれぞれの仲間のやる気や集中力にとっても大きく作用しているのではないかと思うのです。もしその場に他の仲間がおらず、一人で同じ工程をすることになったら、今のように作業し続けることはできないだろう、と思っています。

～まわりに合わせる～

作業以外の場面では、愉（さとし）さんがまわりの仲間の動きをととても敏感に察知している姿をよく目にします。「愉さん、散歩行こう！」と職員から急に声をかけられても、「いや！ここ（にいる）！」とかたくな態度をみせる愉さんですが、他の仲間が玄関に移動していくと、それをみて自分もすたすたと玄関に向かいます。食事も、周りを見回しておよそ全ての仲間が食べ終わりそうになったときに、初めて弁当のふたを開けて食べ始めます。なので、周りにゆっくりペースの仲間がいると愉さんもゆっくり食べ終わることになり、ぺろりと食べる仲間集団の中だとそれに合わせてすばやく食べるのです。

～仲間集団の中の立ち位置が変わった～

以前の綾乃さんは「自分が、自分が！」の思いが強くありました。いつでも自分が話の輪の中心になりたいし、みんなの注目を浴びることは全て自分がやりたい、まわりの人が脚光を浴びているのをみると不機嫌になる、という人でした。

しかし最近、他の仲間に関心をもつ姿がみられるようになりました。「哲夫さん、（寝転んでないで）起きやあ。」であったり、「剛さん、こっちきて帰りの会しよう。」というような声かけが目立ちます。すると、「がんばれ！」のような仲間を応援する場面も出てきて、仲間がそれを達成すると一緒に喜ぶ姿も見られるようになりました。

今では、朝の会の司会などは全て後輩の梓（あずさ）さんに譲り、自分は班員の一人としてその場を楽しむ、という日がほとんどになりました。

～まとめ～

ポップコーンには、総じて知的に重度の障害を持つ仲間が多く、「典型的な仲間集団」はなかなか見られない、というのが実情です。しかし、そんな中でも「集団の発達の意義」というものは確かにあるはずで、次回から、丁寧に掘り下げていきたいと思います。

（参考文献）

○奥平康熙（2006）「集団づくりと人間形成」教育科学研究会編『現代教育のキーワード』pp.154-155 大月書店

はあー？～病弱養護学校物語～7

近藤博仁 作

永井先生

養護学校にも生徒指導部という分掌がある。分掌というのは、教員が校務を分担して業務の円滑化を図るために作った組織である。生徒指導部は生徒の風紀を見守る生活指導の他に生徒会も担当している。生徒会はこの学校では運動会や学校祭などで進行係を務めている。高等部の生徒会はあかしあの康子が会長、中学部はあおばの聡志が会長を務めている。彼らは今までの先輩がやってきたことを忠実に守って真面目に仕事を進めている。しかし、私は、もう少し生徒会に進んで行事に関わる何かをしたいと思っている。

私が部長をやっている今が、そのチャンスだ。

聡志たちあおばの中学生には自信をつけさせることが大事だ。中学部を卒業したら、ここにいることが出来なくなる。あかしあと違って高等部には進学できない。我々の手から離れて、一人で外部の荒波に立ち向かっていかなければならない。それには、相当な自信を持たせることが大事だ。

自信を持たせるには、いろんなことにチャレンジさせて、「自分でやった」という達成感の積み重ねが必要だ。達成感をもたせるのにはどうしたらよいか。「これは君たちが考えることだ」と投げかけてじっくり待つ。自分で考え自分で動く。それが大事だと思うのだ。見守る大人には見通しが立った計画というものはない。受け止める度量が必要なだけだ。

それとは反対に学校が運営されることがある。生徒を一つの歯車とすることによって、全体が円滑に機能するような計画が設定されるのである。教育ではなく、管理が持ち込まれる。計画が綿密であればあるほど生徒の自由度が狭められていく。当時の長尾養護学校がそのように運営されようとしていた。学校祭の目標に、生徒の「主体的な活動」という言葉を使ったら、「過激だ」ということで訂正を要求された。

「そんなもんやれるはずがない」

私は、語気を荒げて春田に言った。春田は、夏にこの居酒屋で痛い目にあっているのに今度は大丈夫だと全然根拠のない保証をして、連れてこられた。

春田とは同じ年に長尾養護学校に転勤してきた。以来、何時も一緒に飲む仲間である。生徒指導部にいた春田は、今年から進路指導部の方に移っていた。一緒に分掌ではなくなったため、春田には「そんなもん」と言われても、勘の働かせどころもなかったようだ。

「はあー？なんのことですか」

「校長が学校祭の計画を初めに全て出せと言ってくるんや」

「そうですか」

春田はまだ何のことかよく分からないらしい。私は続けた。

「校長の行事のイメージは、十月にあった東海・近畿地区の病弱教育研究会の計画なんや。雲町

主事の作った計画のように、初めに全体像が冊子になって出てこないで満足しなわけよ。つまりな、準備から当日までの計画が完璧になっていることを要求してくるわけよ。書類がそろってればいいのよ。研究会の時でもそうやったやろ。研究の内容よりも、いつお茶を出すだの、灰皿の場所はどこにするだの、些末なことをさも大事なことのようになら全部、書類の中味にして出したあの計画やて。ほんと形式主義の文書主義という奴や」

「えらい分厚い計画書でしたね。中味見ると時間の無駄みたいなことばかり書いてあったけど」「そうやろ。研究会にしたって、もう少し、簡潔な計画ができると思うよな。どうでもいいようなことまで冊子の中に書かれていて、誰が読むんや」

「そうそう、かえって笑えますよね。大まじめにあんな仕事して」

「それを校長が望んでいるから、みんなもそういう計画を作るわけだ。まいるよ全く。学校は子どものためにあるんやろ。教師が自分の仕事の見栄えを良くするために、子どもを利用したらいかん。子どもが計画を進めるところからが、指導する側の計画になるわけや。そうすると、ざくっという頃までに何を作る程度の計画になるわけよ。もうちょい子どもを信頼して、見守っと思ってくれと言いたいところやけどなあ」

「なるほど」

「おまけにな、うちの分掌の野里主事がさ、分掌会の時は何も言わんのに、運営委員会になると俄然校長サイドに立って、しゃべりだすのよ」

「けしからんですね。生徒には良いおじいちゃんぶりを示しているのに」

「そうやろ、そのギャップが余計に腹が立つわけよ。『計画はしっかり出さないかんですよ』なんて言ってな。どういう奴やと腹が立って仕方がない」

学校祭という呼び方を止めて、新たな名前を生徒会で作ると康子や聡志たちが言っている。プログラムの頭につけるタイトルが決まらない。しかし、待つてやろうと思う。生徒が考えた名前が今後ずっとこの学校行事に残っていく。素敵なことだ。

多少、胃が痛い思いもするが生徒のためや。もう一踏ん張りして、文書主義と戦っていこう。話すだけ話してすっきりしたところで、飲み会をお開きにした。

そうして、長尾養護学校の学校祭の名前は決まった。私の胃には潰瘍が残った。

一方、聡志は、中学三年生の十二月を生徒会でがんばったというそれなりの達成感をもって、次の道、進学への準備を進めることができた。

つづく （この物語はフィクションです）

一口メモ

学部主事

養護学校独特の教員の職階。岐阜県では管理職として手当も付く。他県は学部の教師集団のリーダーとして互選しているところもあった。当時は、岐阜県の方が少数県であったが、現在はどうかであろうか。なお、主事は学部運営のリーダーの他に各分掌の会議に顧問的立場で参加することが多い。

ヘルパーさんと作る

カンタン料理レシピ

⑥

こもり じゅんこ

ヘルパーさんがいろいろやってくれる時間は限られています。あれもこれもやって～という訳にはいきません。時間配分を計算し、何と何をやってもらえば、自分がいちばん楽ができ、自分の時間をもっとも多く確保できるか毎回考えるのは、けっこう大変です。そしてそれらの材料をいつまでに用意しておくかも、長く歩くことができなくなって買い物難民になってしまった私にとって、頭の痛い話なのです。そんな中、きゅうりを切ってもらう時間がなくて、代わりにブロッコリーの芽を入れて作った新メニューを紹介します。

今回は、

変わりポテトサラダ

=ヘルパーさんにやってもらうこと=

- ① ジャガイモ4こを皮をむいて、適当な大きさに切る。
- ② 玉ねぎ小1こを粗みじんにする。
- ③ にんじん半分を5ミリ角くらいに細かく切る。

=作り方=

- ④ ブロッコリーの芽2パックを、キッチンバサミで根元から切り、さっと洗ってよく水をきる。
- ⑤ ベーコン好みの量を適当な大きさに切り、フライパンでカリッと炒める。
- ⑥ ①をゆで、ゆであがる3分くらい前に③も入れ、いっしょにゆでる。
- ⑦ ⑥を木べらなどで適当につぶし、塩と黒コショウを軽くふる。
- ⑧ ⑦に、②と⑤とマヨネーズを入れて混ぜ、好みの味にする。
- ⑨ 最後に④を入れ、ざっくり混ぜて、できあがり。

我が家では、ジャガイモをつぶすのは夫の係でしたが、几帳面な彼がやると、これでもかというくらい、完璧につぶすのです。ある日娘が、「やっぱりポテトサラダは、ジャガイモがところどころ固まっているのがあるほうが美味しい。ずぼらな母さんがつぶしたのがちょうどいい」と言ったので、私がやることになりました。皆さんは、どちらが好きですか？

岐阜発達保障講座2013

～全国大会プレ企画第1弾！！～

2014年1月12日（日）

午後1時～5時

（大垣情報工房5階セミナー室にて）

講師 浜谷直人（首都大学東京）

「仲間とともに自己肯定感が育つ保育」

講師 土岐邦彦（岐阜大学）

「人はなぜ“集団の中で変われる”のだろうか」

※詳細は近日中にお知らせします